

人間の欲望

大森 海太

その昔、中国の大金持ちは客人を饗応するのに山をひとつ焼き払い、何千頭もの鹿が焼け死んだ中から、ほどよく焼けたのを選んで宴席に供したという。

この話の真偽はともかくとして、現在世界の大富豪の究極の欲望のひとつは豪華クルーザーを持つことだそうだ。例のオリガルヒ諸氏や、かつて日産のゴーンさんも所持していたとかで、高いのになると邦貨換算二百億円を超えるというから、さすがに違う。でも、いくら最高の高速艇で世界の海を駆けめぐるといっても、あんなものに三日も乗っていたら飽きるんじゃないか。

同じような究極の贅沢では、トランプさんのフロリダ別荘みたいな豪華セカンドハウスがある。プールサイドに美姫を侍らせて日夜酒池肉林なら、人間の欲望の極みかもしれない。それもいいけど、あんな立派な家屋敷を持ったら維持管理、保守点検、税金対策など頭の痛いことが山積みだし、それよりもどこかリゾートホテルにでも泊まった方がよっぽど安上がりで気楽だろう。

確かに若いころは、これほどじゃないにしても出世欲、権勢欲、金銭欲、贅沢願望、女性にもてたい願望など、人並みには持っていたと思う。我が人生においてこれらの欲望が必ずしも十分に満たされたとは思わないが、一方トシをとるにつれ少しずつその思いは希薄になり、質的にも変化してきたような気がする。

大学時代、経済学の講義で「限界効用逓減の法則」を教わった。「腹が減ったとき一杯目の飯は大変うまいが、二杯目、三杯目になると有難味が少なくなる」ということだが、贅沢の限界有難味も年齢とともに逓減してきたように思うのだ。

今さら着飾って高級レストランで、高価なワインと有名シェフの料理を前に上品な会話を交わすよりも、気の合った仲間とイッパイ飲み屋で安酒を飲みながら、大声で言いたい放題ワイワイやるほうがずっと楽しいだろう。

どうもケチくさいことしか頭に浮かばないが、ゴーンさんやトランプさんじゃないんだから、マいいでしょう。